

福島県教育旅行ジャーナル

Fukushima Prefecture Educational travel journal

発行責任者 福島県観光交流課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
TEL:024-521-7286 FAX:024-521-7888
E-mail:tourism@pref.fukushima.jp

Vol. 1

平成25年9月発行

福島県内では地域の自然や文化を生かした、特色ある教育旅行が実施されています。

この「福島県教育旅行ジャーナル」では、福島県に教育旅行で訪れた学校を取材し、

その独自の取組みや楽しさ、魅力について情報発信していきます！

第一校目は、2012年度に裏磐梯高原で教育キャンプを実施した栃木県立矢板東高等学校です。

雄大なふくしまの自然の中で、45回目を迎えた伝統行事

裏磐梯高原で2泊3日の教育キャンプ 栃木県立矢板東高等学校

栃木県立矢板東高等学校が訪れたのは夏の裏磐梯高原。この教育キャンプは伝統行事といえるほど前から実施されており、2012年度で通算第45回目(!)だそうです。

今回は2012年度の教育キャンプに引率された関谷恭弘先生にお話を伺ってきました。

—関谷先生、震災後の福島県で教育キャンプを実施するにあたって保護者の反応はいかがでしたか？

関谷先生:福島県では細かい線量の発表も日々されており、それを伝えていたため、もともと大きな反対意見はありませんでした。裏磐梯高原と矢板(地区)との線量の差がほぼなかったということもあるのでしょう。その後、下見の報告をした時には一部の保護者が抱いていた不安もなくなったようです。

—この教育キャンプを実施するにあたって事前の取組みを教えてください。

関谷先生:はい。先ほども触れましたが、私どもは実際に現地を下見をしてきました。そこでは、滑落などの大きな危険箇所は見られず、また磐梯山各登山ルート内に50カ所以上の線量測定地点が設けられており、数値を確認できることが安心材料のひとつになりました。

—福島県で教育キャンプを実施して良かった点は？

関谷先生:生徒たちが震災を身近な問題として捉え、自分たちに何ができるかを考えることができました。特に2011年度の教育キャンプの時には、生徒たちが自ら千羽鶴の作成および寄せ書き入りの横断幕を作成し、猪苗代町役場に寄贈しました。

—他県から見た福島県の魅力を教えてください。

関谷先生:対応して下さる人たちの人間味あふれる温かさです。あとは、なんといっても美しい自然です。

—震災以前から福島県にいらっしゃっていたということですが、逆に、震災後の福島県だからこそ学べることはあると思いますか？

関谷先生:そうですね。震災の風評被害で苦しんでいても、訪れた人を明るく、そして温かくもてなして下さる力強さは素晴らしいと思います。それは生徒たちにもきっと伝わりますし、学べることだと思います。



▲晴天に恵まれた磐梯山登山



▲普段の生活ではできないアウトドア体験




▲力強く燃える炎をみんなで囲んで…

教育キャンプ日程

<p>行き先 裏磐梯高原</p> <p>実施日 平成24年7月26日(木)~28日(土)</p> <p>人数 188名</p>	<p>1日目</p> <p style="text-align: center;">出 発</p> <p>五色沼ハイキング</p> <p>いかり湯キャンプ場 ・開校式 ・夕食作り</p>
<p>●裏磐梯高原</p> <p>福島県北部にある高原状の地域で、磐梯朝日国立公園に属しています。五色沼散策やカヌー、サイクリングなど魅力あふれる体験が楽しめます。</p>	<p>2日目</p> <p style="text-align: center;">磐梯山登山</p> <p>キャンプファイヤー</p>
	<p>3日目</p> <p style="text-align: center;">整理整頓・清掃・点検</p> <p>閉校式</p>

VOICE

ふくしまへメッセージ



栃木県立矢板東高等学校 せき や やす ひろ 関谷恭弘 先生

今まで45回の長きにわたって、本校の伝統行事である教育キャンプでお世話になってまいりました。矢板東高等学校の教育キャンプの歴史は、福島県とともにあります。今後とも、生徒たちの良き思い出作りに御支援くださいますようお願いいたします。